

受講者	男性 51歳 聴覚障害（身体障害6級）+ 知的障害（B2軽度）
受講した訓練	障害者向け職業訓練 実践能力習得訓練コース（企業実習型訓練） 「製本加工」
受講の動機	通所していた福祉施設から受講を薦められ、デザイン印刷や製本に興味を持った。
就職先の希望	希望雇用形態：正社員 希望職種：製本の加工に関わる仕事
就職の状況	訓練修了後、訓練先に就職し訓練内容と同様の作業に従事してきた。入社して約1年以上が過ぎ、現在はダンボールの組立やバリ取り作業を中心にを行い、製本機の機械オペレーターとして機械操作をひとりでできるようになった。ハンドリフトによるパレット移動など、自ら作業準備の流れを自己申告して業務の拡大に努めている。
就職先の評価	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的マナーや規律の厳守ができ、積極的にホウレンソウを実施し、職場内でのコミュニケーションも良好。 ・フレーム作業や機械操作などひとり作業ができるようになり、目標に対する達成意欲が向上した。 ・不良品のチェック能力が人一倍高く、周りから頼れる存在として戦力になっている。

訓練の内容

- 訓練の目標 商品の選別、数量確認を正確におこない梱包等の出荷業務ができること。

主な訓練カリキュラム

(学科) ・ マナー講習（話し方などのビジネスマナーを習得）	(学科の訓練時間)	4 時間
・ チームビルディング講習（コミュニケーション能力を高める）	(実技の訓練時間)	2 1 6 時間
・ 安全と衛生講習（職場で働くうえでの重要性について理解する）	(総訓練時間)	2 2 0 時間
(実技) ・ 商品の箱詰めや数量確認などフレーム作業を習得	(訓練日数)	3 9 日
・ 様々な製本機の機械オペレーター助手としての操作を習得	(訓練期間)	2 か月
・ 職場の機械・作業台・床などの清掃管理方法を習得		



- 障害に対応した指導の工夫や配慮について

- ・聴覚障害のため筆談と大きな声での会話をおこない、指示内容を理解してもらうことを常に意識した。
- ・ひとり作業ができるまで担当者を配置しマンツーマン指導を行い、できたことを褒めることで仕事への意欲に繋げるよう努めた。
- ・生産目標を示すことで、自らの判断で目標に向けた作業ができるように指導を行った。
- ・ホウレンソウ（報告・連絡・相談）ができるように、どのタイミングで・何を・誰に伝えるのか、その重要性の理解について指導した。
- ・職場の従業員が努めて声掛けすることで、相互のコミュニケーションを図れるようにした。
- ・支援機関担当者には頻繁に来社して頂き、訓練状況の見学と意見交換により作業の工夫や改善等を行った。

- 訓練の成果について（訓練機関より）

- ・障害の理解について社員の意識に変化があった。（障害があっても一般者同様に仕事ができ、就労への前向きさを理解できた。等）
- ・障害者目線に立った作業改善により、職場の作業システムをより判りやすく変えることができた。
- ・障害があっても自立への意欲、社会的基本マナーや職場の規律厳守ができるようになることで一般就労が可能であることを確信した。